

審査の結果の要旨

氏名 横山太範

本研究は集団精神療法・治療グループにおいて集団がどのような過程(プロセス)を経て治療的な効果をあげて行くのかを数値化し検討するため、新しく東大式ソシオメトリックテストと呼ばれるテスト紙を開発し、臨床データについて検討したものである。本研究では以下のような結果を得ている。

- 1) 東大式ソシオメトリックテストについては信頼性・妥当性が検討された。このテストはグループのプロセスを観察するための評価の指標として集団の「凝集性」を用い、操作的基準の作成には社会心理学領域の知見が応用された。数値化に関しては主観的体験を数値化する際に広く用いられている 10cm visual analogue scale 法が採用された。このテストによって得られたデータの信頼性は α 係数で 0.936 と高いものであった。妥当性については治療者側が判定した凝集性との一致、不一致が検討され、統計学的に有意なものであった。さらに、不一致部分については詳細な検討がなされ、東大式ソシオメトリックテストの有用性が示唆された。これらの結果から東大式ソシオメトリックテストが臨床的に用いるに値するものであることが示された。従来、グループプロセスの研究は評価者の主観的な意見による報告が主で、数値化されないものばかりであったが、本テストによって参加者の体験に基づいた数量データとしての検討が可能になり、今後、統計学的な検討を含めた客観的な研究の基礎となるものと思われた。
- 2) 東大式ソシオメトリックテストを用いた臨床データの解析からは、治療効果ははっきりと表れる段階に達するまでには集団の凝集性が減少してゆく局面が 2 箇所存在することが示された。従来の治療グループや体験グループなどを含めた広範囲にわたる研究では、このような後退局面は 1 箇所のみと考えられていたのであるが、治療グループに限定した本研究で二箇所目の後退局面が示されたことは臨床的に重要で、集団精神療法を行っている際にグループ全体の状態を把握する精度を高めるものと思われた。
- 3) 同時に行われた下位項目尺度の検討からはグループプロセスの各段階における特徴が示され、新たに 5 段階の発達プロセスモデルが提示された。グループ治療の初期にはグループあるいはグループリーダーへの強い理想化がおこり、その理想化が壊れた後、中期にはメンバー相互の依存的関係の形成と崩壊が観察された。これらの幻想的な理想化、相互依存といった段階を経て最終的に集団は治療的な係わり合いを共有できる状態に変化・発達してゆくという本研究で示されたモデルは、集団精神療法における治療者の介入の方法やタイミングを検討するために重要な資料となるものと考えられた。

以上、本研究は精神科臨床における重要な治療技法の一つである集団精神療法の評価な

らびに技法論について客観的なデータを与え、今後の研究に大きく貢献するものと思われ、学位の授与に値するものと考えられる。